

南 国 採 集 記

花 岡 正

<与那国編>

1995年1月4,5日、1996年1月3~5日の2回採集に与那国へ渡った。2回共、石垣島の採集とかけもちだったので短い急がしい行程だったが、カミキリがそこそこ採集、羽脱し成果が上った。南国で気温も高くツマベニの姿がそこそこ見られ仲々気持ち良かった。宇良部岳、テンダバナ、祖内部落、西崎公園、満田原林道で採集、宇良部岳頂上までは車で上れるが、道路から少しそれると足が仲々進まないブッシュの状態。中腹から頂上にかけてハゼ、アカメガシワ、ガジュマルがあちこちに見られる。ガジュマルの根元の草の上でキボシの成虫をゲット、成虫はこれだけ採集したのみ。

ハゼはキマダラヒメミヤマの宿主なのであちこち見て廻るが、枯れ枝、倒木はほとんど無く、新しい倒木はダメ、古くなるとウスイロフトだったり結局1頭羽脱したのみ。いろいろの人の話や、2回の採集からハゼの折れた枝の幹側の部分が良い様でT氏はガジュマルの同じ様な状態の部分から羽脱させたとの話を聞いた。ウスイロフト、ノブオフト共に頂上付近のハゼ、アカメガシワ、スタジイから少しずつ羽脱、ガジュマルからキボシ、サキシマトゲムネ、ヨナグニゴマフが、麓のニッケイからイリオモテトラが羽脱。アコウ、ガジュマル共にヨナグニジュウジクロは羽脱しなかった。

祖内部落のフクギの倒木からキボシを割り出す。この木からヨツスジトラ、ムモンアカネトラ、イツホシシロ、ヨナグニゴマフが羽脱。テンダバナの竹を見て廻ると、10^m/m前後のカミキリの羽脱孔が有る。サビアヤかもと適当に持ち帰るが結局羽脱せず、ササの頂上からウスアヤを採集、幼虫もかなり見つけたがこれ又羽脱せず、石垣、オモト岳のゴダケザサも2回オモトウスアヤをと思いい持ち帰ったがこれも羽脱せず、石垣満田林道のタケからサビアヤを羽脱させた位で水分の為か仲々難しい。ピン類に水をさし、この中にタケを入

れ持ち帰ればあるいは羽脱するかも。満田原林道ではスタジイ、アカメガシワからノブオフト、ウスイロフト、ヤノヤハズ、ニッケイからハッタアメクロが羽脱。ヨツスジカミキリの宿主、クロツグは西崎公園、宇良部岳、祖内と比川間の道路沿いに有り、羽脱口が見られた。成虫は2年間に渡り羽脱、乾燥に強い様子。

他にフトガタヒメ、ワモンサビ、ゴマフサビ、ハヤシサビ、フタホシサビなど。ヨナグニジュウジクロはN氏が宿主不明だが10頭余り羽脱させた。幼虫の割に成虫になり羽脱する個体が少なく、できるだけ乾燥に留意、工夫しなければ、ノブオ、ウスイロは数が少ない。

蝶ではツマベニ以外にクロテンシロ、タイワンモンシロ、タイワンシロ、スジグロカバマダラ、オオゴマダラなどがマントの辺りや、マントの間の細い道沿いの花に見られた。タテハモドキも西崎公園で、その中でもコモンタイマイが一番のニュースらしい。1月だと言うのに成虫で採集されたのは1996年が初めてらしい。例年だと11月位で成虫は見られなくなるらしい。ポイントはアオスジアゲハと同じ様な行動らしく、高所を飛び廻り、時々マントの辺りに降りてくるのでこれを採集するとの話で、満田原林道の少しテンダバナ寄りの細い道の足場の良い所が良いらしい。T氏もゲット、短期間でも与那国は良い島だ。

キマダラヒメミヤマ	1996. 4. 26	宇良部岳
		宿主 ハゼ
ノブオフト	1996. 6. 15	満田原林道
		宿主 スタジイ
ウスイロフト	1996. 7. 9	宇良部岳
		宿主 アカメガシワ
ヨツスジ	1996. 7. 8	宇良部岳
		宿主 クロツグ
ハッタアメイロ	1996. 7. 12	満田原林道
		宿主 ニッケイ
イリオモテトラ	1996. 6. 22	宇良部岳

ホスト ニッケイ

<石垣編>

1990年、1992年、1995年、1996年の1月ばかりに採集に行った。カミキリは約50種、タマムシは10種弱、蝶も少々採集。採集地は、バナナ岳附近、オモト岳から嵩田林道附近、ウラオモトの附近、平久保など、やはりカミキリが主な採集目的で、主な物で

タイワンツツサビ 1990. 5. 14, 1992. 5. 28

平久保

イシガキフト 1990. 5. 24 オモト岳

ホスト スダジイ

ヤエヤマホソバネ 1996. 5. 27 米原

ホスト アカメガシワ

オオバヤシトゲヒゲトラ 1996. 6. 9 オモト

サキシマトゲヒゲトラ 1996. 6. 22 ウラバナナ

公園 ホスト スダジイ

イリオモテトラ 1996. 7. 4 吉原

ホスト タブ

オガサワラチャクロ 1996. 7. 13 吉原

ホスト タブ

ムネマダラトラ 1992. 5. 28 米原

ホスト キリ的一种(タイワンギリ?)

コゲチャフタモン 1996. 6. 24 オモト岳

サキシマコブヒゲナガ 1992. 6. 1 オモト岳

チュウジョウトラ 1990. 7. 5 オモト

イシガキトガリバサビ 1996 etc.

バナナ岳からウラバナナ公園の辺りのモチ、ニッケイetc. からニッポンモモブト(多)、シイ類からサキシマトゲヒゲトラ、ヤエヤマフト、アカメガシワからヤエヤマホソバネが、ピワの細枝からリュウキュウヒメアメクロが羽脱。オモト部落からオモト岳にかけてところどころにポイントが有る。墓地の辺りはチュウジョウトラが確実に採集出来るのは石垣でもこの辺りだけと言う話だ。偶然、1990年に墓地の入り口の倒木の枝を折ると成虫が見られ、この木の枝を持ち帰ったが数はあまり多くなかった。その後も石垣に来る毎にこの辺りでチュウジョウをねらうが数はやはり多く無い。

墓地から畑の中を歩いていく辺りにカラスウリ

が見られるが、花が咲いていて枯れツルがほとんど無いが、タイワンシラホシサビを1頭羽脱させた。ここから少しオモト寄りにアカメガシワが少し有りヤエヤマホソバネとオモトピロードのポイントだ。オモトピロードは樹の幹に荒い食い後を出しているのがこれが目撃した。このポイントからオモト岳下の広場までと、嵩田林道にはカラスザンショウが多く、シロアラゲ、リュウキュウヒメアメクロ、キボシ、タイワンメダカが羽脱した。

オモト岳の中腹までは、木も高く原生林という感じだ。イシガキフト、サキシマフト、キマダラヒメヒゲナガ、ヤノヤハズ、ヒロオビオオゴマフ、ニッポンモモブト、ケルシュウムが羽脱。毎回ヤンバルアワブキを持ち帰るがムモンウスアオは姿を見せない。やはり枝では無く根元に根に入ると言う話が本当らしい。頂上はアサヒナキマダラセセリのいるゴダケザサの笹原が広がりこの下までは、バリバリ、ニッケイ、エゴノキなどが混る。バリバリは枯れ枝が少なく、Y氏がイシガキイトヒゲを1頭羽脱させたが私はアメクロが羽脱したのみ。1996年にエゴの先の無い1m余りの株を見つける。樹皮にカミキリの荒い喰いあと、木を切断するとミカンを輪切り状態に3cm位のカミキリの幼虫が見られた。穴を少しつめ持ち帰った所やはり思った通りにフトヒゲウスバとコゲチャフタモンが羽脱。同日に材箱の右側にフトヒゲウスバ、左側にコゲチャフタモンを見つけたときの興奮、仲々こんな機会は無ないものだ。エゴを持ち帰った少し下辺りでW氏が樹種不明だがトゲウスバを羽脱させたとの話。四国、沖縄でもモチから羽脱させた話を伝え聞いたり、R氏の採集した枝を見せてもらいバナナ岳、嵩田林道でモチを探す、食い入っている様子は見られなかった。北側の尾根筋のモチが良いらしいが、一度採集に行きたいものだ。R氏は他にもニッケイのマツダクスベニの材も採集されていた。同じポイントとの話。尾根筋まで登るらしいので体力勝負の様子。吉原では、仲筋御嶽の林でクロヨナからフタツメイエ、ムネコブゴマフ、オキナワゴマフ、ムネモンアカトラ、タブからオガサワラチャクロ、ムネスジウ

スバ、米原キャンプ場はオオハマボウ、クロヨナが多く、ヤエヤマケシ、オキナワゴマフが多い。

ヤエヤマヤシ園の入り口のキリ、アカメガシワ混りの藪からY氏がムネマダラトラを見つけた。

7~8mから16ミリ前後の個体まで羽脱して来て模様も美しく数多く採集したいものだ。

アカメガシワからはヤエヤマホソバネが羽脱、せまいポイントだが毎回石垣に来ると採集に必ず向かいたい所だ。平久保ではカズラからタイワンツツサビ、ヘクソカズラからイシガキトガリバサビ、クサギからカスリドウボソ、ウスバ、イシガキゴマフ、他にY氏がヤエヤマフトを羽脱させている。

タマムシは名蔵のリウシジからキボシフナガタタマ(1992. 6. 3など)、アヤムネスジタマ、リュウキュウヒラタタマ、ミドリナガボソタマ、オキナワムツボシタマなど、クワガタはサキシマヒラタクワガタをクスノハエノキの樹液に来ている個体やこの木の根元の土の中から1992. 1. 2から3日に採集、N氏もアカメガシワの樹液に来ている個体を採集している。

蝶はバンナ岳からウラボンナ公園でクロコノマ、タイワンシロ、ナミエシロ、ツマベニ、オオゴマダラ等や、オモト部落から嵩田林道でツマムラサキマダラやヤエヤマムラサキ、ヤエヤマイチモンジ、タテハモドキなどが見られ採集者も時々見かけた。米原のヤエヤマヤシ園でタイワンクロボシシジミも採集、平久保ではカバタテハも飛んでいた。

吉原でも蝶は多く、アオタテハモドキ、タテハモドキ、シロチョウ類、シジミ類が多い。林の中の少し空間になっている所で、1996年1月2日、晴天に7~8m位いの木の上から下まで、幹から枝先までスジグロカバマダラがビッシリ。反対側の同じ位いの大きさの木にはリュウキュウアサギがこれと同じ状況。何年前かにテレビで中南米、たしかメキシコ辺りの山中の蝶の越冬状況の放送を見たのとスケールは全く違うが同じ様子。空間には少し蝶が飛んではいたが、混り合わないのが不思議で、カメラを持っていなかったのが残念だった。

ツマムラサキマダラ	1996. 1. 2	嵩田林道
ヤエヤマムラサキ	1996. 1. 2	〃
	1995. 1. 2	〃
タイワンクロボシ	1990. 1. 2	米原
カバタテハ	1996. 1. 2	平久保

<奄美編>

奄美へは1988年1月24, 25日、1991年1月13~15日、1994年1月1~4日、7月1~3日の4回採集に出かけた。行く毎に道路事情が良くなり空港から宇検村まで車で行く時間が半分位になった様に思われる。

本勝峠、名瀬附近から中央林道、南川林道、湯湾から福元、赤土山附近、油井岳附近で採集。

本勝峠 アカマツからコブバネゴマフ、ニイタカハナ、クサギからケプトハナ、マメガキからサツマヒメコバネ。

名瀬附近 アカマツからニイタカハナ、マツノマダラ、ミミズバイからオオシマホソハナ、マルオカホソハナ(マルオカのメインホストはアマシバと思う)、他にカギモンミドリホソトラ。7月の成虫ではニッポンモモブトが多い。

中央林道 この道は名瀬から北部山中を通り宇検村までの道で、所どころ伐採された所や、伐採後数年過ぎた所、吹き上げの尾根筋がポイントになっている。イジュ、ホルトノキ、アデクの花にはオオシマミドリ、オオシマホソハナ、ニッポンモモブト、ヨツスジホソハナ、アマミトゲヒゲトラなどが採集出来た。1996年7月4日にW氏がフェリエベニボシが頭上のシイの枝に止まった物を採集。同行者全員の目の前で採集したあ後の約束を早く果たして下さい。アマミネキには少し遅かった様子で6月中~下旬が良い様子。イスノキからオオシマドウボソ、リュウブモモブト、他にキュウシュウチビトラ、アカカワシロヘリトラetc.

南川林道 入り口の川沿いの道にアマシバが少し見られマルオカホソハナが多い。少し入った所でタブの切りカブを見つけノコで切断。ものすごいカミキリの食孔。持ち帰ったらムネスジウスバが2年に渡り羽脱。他にこの木からコウノ

ゴマフ、ニッポンモモブトが羽脱した。

宇検村から湯灣・湯灣から福元 カラスザンショウ、ニッケイ、カゴ、アマシバ、ハイノキ類、ヤンバルアワブキがあちこちに見られる。カラスザンショウからコバルトヒゲナガコバネ、シバタヒゲナガコガネ、シバタアラゲサビ。コバルトは皮のついている幹や枝、シバタアラゲサビは皮の無い枝が良い様子。カゴからアマミルリホソヒゲナガ、ヤンバルアワブキは福元に多くキイロイトヒゲのポイントとの話。アマシバからアマミアカハネ、ヒゲナガホソハナ、オオシマホソハナ、ツヤアラゲサビ、マルオカホソハナなど。ニッケイからタケウチヒゲナガコバネ、シバタヒゲナガコバネ、他にオオシマミドリ、フーケントラ、オキナワトビイロ。

赤土山附近 成虫でオオシマゴマダラ、センノキ、この峠から少し南に入った所に伐採地が有り、ここが奄美で一番良い採集地になっている様だ。

材でイスからリョウブモモブト、アマミズマル、7月のナイターでキイロミヤマ、トゲウスバ、ムネスジウスバ、キマダラヤマなど。甲虫でタイワンカブトムシ……これは奄美未記録とのこと。成虫採集ではオキナワトビイロ、ウスグロトラ、アマミトゲヒゲトラ、オオシマミドリ、ウスシロなど。他にフェリエベニボシ、ヨツオビハレギ、アマミネキ、ムモンチャイロホソバネが1995年から1996年にかけて採集されたニュースが入ってきた。

油井岳 ここはモリヤシロオビチビがマツの枯れ枝から採集でき、材からも羽脱する。食コンが小判形をしているので他の種類と見分け易い。他にウスグロホソバネ。

ヤエヤマトラは住用、新村のミカン島の附近、ミカンの枯れ木に見られた。他にキイロアラゲは海岸沿いのカラスザンショウに多いが、コバルトは少ない様子。中央林道のアカメガシワからオオハナノミが羽脱した。

蝶ではアカホシゴマダラのことを少し。同行のT氏が名瀬の拝山で7月1、2日に20頭位採集。

私も住用の新村の道路上、赤土山の伐採地、福元で夕方テリトリーを張っている個体や、赤

土山の伐採地の道路沿いの50センチ位のエノキにいる幼虫を見かけた。島のあちこちに居る様で飛び方はウスバシロの様に流れる様にゆっくり少し高所を飛ぶ様だ。それと驚いたことをもう一つ。中央林道の尾根筋で7月2日6時位いから7時位いカミキリを待っていると樹上にもものすごい数のアオバセセリが飛び廻っているのを見た。これが皆アマミネキならなと何度思ったことやら。

- アラカワシロヘリトラ 1992. 5. 5 中央林道
1991年の材より羽脱
- キュウシュウチビトラ 1994. 7. 6 第二油井岳
羽脱
- カギモンミドリホソトラ " . 6. 29 名瀬近郊
- オキナワトビイロ " . 6. 6 第二油井岳
ホスト タブ
- モリヤシロオビチビ " . 5. 21 油井岳
ホスト アカマツ
- トラフホソバネ(ウスグロホソバネ) " . 5. 31
油井岳 ホスト アカメガシワ
- ニイタカハナ " . 5. 21 名瀬市
ホスト アカマツ
- リョウブモモブトヒメコバネ " . 5. 11 第二油
井岳 ホスト イス
- マルオカホソハナ " . 5. 12 名瀬市
ホスト ミミズバイ
- フーケントラ " . 4. 25 福元 羽脱
ホスト カラスザンショウ
- コバルト " . 4. 13 福元 羽脱
ホスト カラスザンショウ
- シバタアラゲサビ " . 4. 13 福元 羽脱
ホスト カラスザンショウ
- アマミルリホソヒゲナガ 1991. 7. 10 赤土山
羽脱 ホスト カゴ
- 他にタイワンクリイロシロホシ、コブスジサビ、ヨツボシシラホシサビ、リュウキュウルリボシ
etc. 約40種余りが羽脱。
- 同行したN. Y. T. R. W. I氏などの記録も勝手に載せましたが御容赦を。